

光る風



兵庫県立ひょうごこころの医療センター

〒651-1242 神戸市北区山田町上谷上字登り尾3

TEL (078) 581-1013 (代表)

(078) 940-5510 (地域医療連携課直通)

FAX (078) 581-1005

URL <https://hmhc.jp/>



- ✦ 巻頭言～新年度にあたって～
- ✦ 新年度のご挨拶
- ✦ 新任のご挨拶
- ✦ マスクの着用について
- ✦ 外来診療のご案内
- ✦ 交通のご案内



巻頭言 ～新年度にあたって～

院長 田中 究



新型コロナウイルス感染症の流行で、私たちの暮らしも仕事も影響され、心身の不調も経験しました。ワクチンやリモートワークなど新しい技術や知見が増え、それが駆使され実行された日々が続きました。

ひょうごこころの医療センターでも最善の医療を提供できるように、目まぐるしく変わる日々のなかで、職員一同、学びを重ね、力を合わせて対応して参りました。今年度はこの感染症の流行から脱せそうです。この期間中に積み上げた知識や技術を活かし、さらに研鑽を積み、人としての尊厳を大切に、だれもが安心できる医療を提供して参ります。現在、児童青年期の方のインターネット・ゲーム依存の治療プログラムを新設し開始しております。またアルコール依存症や不登校のプログラム、認知症をもつ方やそのご家族へのプログラム、成人のデイケアプログラムなどは感染対策から制限がありご不便をおかけしておりましたが、順次拡充し、開催しております。さらに本年4月、精神保健福祉法が改定され、入院者訪問支援事業という入院患者の支援者との面会制度が整備され、地域生活の相談支援体制の充実がなされ、病院内の不祥事の通報義務が課せられるなど、まだ十分ではない所もありますが、これまで以上に開かれた公正で人権に配慮した医療を提供することが法律の中でも求められるようになりました。病院は一時的な治療の場所であり、できるだけ退院して地域で生活することを具体的な形で支援することが一層求められるようになりました。

感染症対策を万全にした上で、地域の福祉支援機関、医療機関との連携を一層深め、患者さまご本人はもちろんのことご家族や支援者の方々とともに、最新、最善の丁寧な精神科医療をお届けできるように、私ども職員一同全力を尽くして参ります。



ひょうごこころの医療センターの春は花いっぱいです。ビオラ、パンジー、ウメ、ナノハナ、サクラ、チューリップ、ネモフィラ、コブシ、ヤマザクラ、ツツジと次々に咲き、こいのぼりも泳いでいます。そして、新しい時代の精神科医療を築く多くの職員が、この花咲く坂道が上がってきました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



新年度のご挨拶

副院長 見野 耕一

私は、神戸大学病院、光風病院、沖縄県立八重山病院、神戸市立医療センター西市民病院、尼崎総合医療センターなどで勤務し、一昨年より、再び当センターに復帰しております。

今年度は、5月から新型コロナウイルス感染症を感染症法上の5類感染症に位置付けることを政府が決定し、これまで講じてきた各種の政策・措置について、見直しを行うことになっています。当センターでも移行期の対策に反映する体制を今まで通り継続しつつ、本来の精神科医療をさらに活性化していく予定です。

精神科救急医療センター、依存症医療センター、児童思春期センター「ひかりの森」、認知疾患医療センターの4部門を中心に、当センターの一員として県内の精神保健医療福祉の向上に寄与することを目的に日々励んでいきます。地域で暮らす精神疾患患者さんが365日安心して生活できるよう診療体制を整えています。また、地域医療機関の期待にも的確に応えられるように、よりいっそうの研鑽を積んでまいりますのでご高配ご支援を賜りますようお願いいたします。



新任のご挨拶

副院長 青山 慎介



この度、副院長兼救急センター長として着任しました、青山慎介と申します。

私は1997年に精神科医になりましたがその頃の光風病院の印象は、とにかく兵庫県の精神科医療のある種の中心でありメッカであり困った時に頼りになるというものでした。そしてその印象は基本的に今でも変わっていません。

前職である神戸大学医学部附属病院には9年勤めましたが、病棟や外来の責任者に就いていた事もあって、転院や紹介をめぐるやりとりで日常にお世話になりました。また長く医局長も勤めましたので重要な関連病院や研修連携施設の一つとしてのお付き合いもさせていただきました。それ以外にもひょうごこころのことは色んなところから耳にしました。良いものもそうでないものもありました。信頼、期待、不満、批判。それだけ注目され気にされるのは公的な基幹施設の宿命かもしれません。

神戸大学病院の前は県立淡路医療センターに11年勤めましたから、私の精神科医としてのキャリアのほとんどは、精神科病棟のある総合病院精神科でした。近くにはいつも他の診療科のドクターがいて、支えてくださいました。当センターにおいても地域の先生方や医療関係者の皆様に何かとお世話になることと存じます。一精神科医として、医療者として、ひょうごこころの医療センターの医療が今よりもっと良質なものになるように、地域にも良い風が吹くように、初心にかえて頑張るつもりで赴任しました。どうぞよろしくお願いいたします。

看護部長 奥 由香

この度、看護部長として着任致しました奥です。この2年間は病院局で看護師確保事業などに従事しておりました。2年ぶりの病院現場に加え、新たな役割に戸惑いながら迎えた初日でしたが、満開の桜と青空に泳ぐ鯉のぼり、整備された花壇の色とりどりの花、そして一緒に働く皆様に優しく迎えて頂き、坂道や緊張での「息切れ」から、ホッとした「深呼吸」に変えていただけました。

当センターの看護師は、児童・思春期～高齢者、そして急性期から慢性期、在宅までの幅広い領域で高い専門性を生かし活躍をしています。新人看護部長ですが、ここの看護師一人一人の活躍を支援し、質の維持・向上に精一杯努めて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



看護次長兼地域医療連携部次長 黒土 留美子

今年度、看護部と地域医療連携部を兼任することになりました黒土です。

患者さんが自分らしく地域で生活していただけるように、患者さんと地域をつなぐ窓口としての役割を担い、生活相談やサービス利用等の支援を行っています。また、各関係機関との連携を強化し、より質の高い支援ができればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。今年もひょうごこころの医療センターには、新緑と青空をバックに鯉のぼりが元気よく泳いでいます。ぜひ、谷上駅から病院の方を見上げてみてください。



看護部次長 西岡 節子

兵庫県災害医療センターから転勤して参りました西岡と申します。この度、外来・訪問の担当をさせて頂くこととなりました。今回で、県立関連施設を含み6施設目の勤務地となります。3次救急を担う高度救命救急センターから、精神科専門病院への転勤にて戸惑うことばかりですが、皆さんのお力を借り、少しでも早くお役に立てるようになりたいと思っています。また、当センターの外来・訪問は、院内外が多職種とも連携した看護を実践しておりますので、皆さんと共に患者さんやご家族が、安心して「その人らしく」過ごせるような支援を実践していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



地域ケア部次長兼診療部精神科部長 石橋 直木

本年度より、地域ケア部次長兼診療部精神科部長を拝命しました石橋です。

平成17年に精神科医として働き始め、もう17年が過ぎました。様々な精神疾患や神経発達症等があつて、その症状や特性を受け入れながら地域の中で生活をされている患者さんの診療をしてきましたが、その中で治療だけでなく、その患者さんやご家族を地域と連携しながらどう支えていくかということに関心を持つようになりました。

幸い当院は、他の県立病院や福祉行政機関で働いた経験のある職員も多く、協同して患者さんの診療や支援を行うチーム医療を展開しやすい環境にあります。同じようにより良い形を模索していても、職種それぞれ視点の違いがあり、彼らの助言をもとに治療方針を見直すこともよくあります。今後も皆様のお役に立つことができるように、患者さんやご家族のために職員の意見がどんどん出てくる雰囲気を作っていきたいと考えています。よろしくお願いいたします。



放射線技師長 沼田 憲作

この度の異動により、淡路医療センターから赴任してまいりました沼田です。

こころの医療センター放射線室では、一般撮影やエックス線CT装置はもちろんのこと、核医学検査（RI）や磁気共鳴画像装置（MRI）など、こころの医療に有用な画像診断装置が稼働しています。「だれもが安全に安心してかけられる医療」を目指し、診断価値の高い検査画像を提供できるよう、頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。



地域医療連携課長兼看護師長 杉田 顕好

この度、地域医療連携課長に着任しました杉田です。

地域医療連携部は当センターへの受診や入院等の窓口業務のほか、入院中の患者さんの退院支援、外来通院中の患者さんの医療福祉相談等、安心して医療が受けられるよう患者さんやご家族をサポートさせて頂く部署となります。患者さんはもとより、ご家族や地域医療機関・支援者のご期待に沿えるよう、地域医療連携部職員一同が、それぞれの役割を全うしていく所存であります。どうぞよろしくお願いいたします。



医事企画課長 平宇 克洋

はじめまして。この度、医事企画課に着任しました平宇です。

桜が花開く中、病院へ続く斜面を登っていると、春の訪れを実感します。

医事企画課は、受付・窓口業務のほか、診療報酬や証明書発行、カルテ管理、小遣金取扱い、統計、施設基準など、様々な業務を行っています。看護部、診療部、薬剤部、地域医療連携部など、他の部署とも緊密に連携をとりながら円滑な病院運営に貢献し、県民福祉の向上に努めて参ります。よろしくお願いいたします。



医療情報専門員 箕山 元邦

この度、丹波医療センターから着任致しました箕山です。

電子カルテを含む、医療情報システムの運用・管理を担当させていただきます。

システムの安定運用に努めるだけでなく、皆様に少しでも便利に使っていただけるシステムとなるよう、精一杯、努めます。

どうぞ、よろしくお願いいたします。





マスクの着用について

これまで屋外では、マスク着用は原則不要、屋内では原則着用としていましたが、厚生労働省より令和5年3月13日以降、マスクの着用は、**個人の主体的な選択を尊重し、個人の判断**が基本となりました。

ただし、高齢者など重症化リスクの高い方への感染を防ぐため、「**医療機関受診時**」や「**医療機関や高齢者施設訪問時**」などではマスクの着用を推奨されています。

※令和4年4月21日時点「厚生労働省ホームページ」より

当センターの敷地内(特に建物内)での
マスク着用の継続のご協力をお願いします

重症化リスクの高い方を守る重要な対策となります。
マスク着用がない場合はご入館をお断りさせていただく場合がありますのでご了承ください。

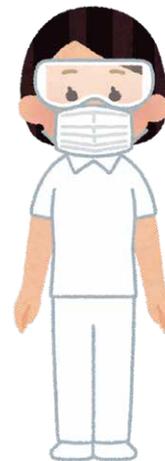


職員のマスク着用継続について

当院では感染対策の一環として、ご来院・ご入院の皆様と関わる場合、職員は「マスク」「アイシールド」を着用の上での対応を継続させていただきます。

顔や表情が見えにくく、不快に感じられる方もいらっしゃると思いますが、感染症から患者様・職員を守るための対策となります。

ご理解、ご協力よろしく申し上げます。





外来診療のご案内

※休診日：土・日曜日・祝祭日及び年末年始

- 初診外来は予約制です。初診をご希望の方は地域医療連携部にお電話ください。
- 初診予約受付時間：平日9：00～17：00
- 地域医療連携直通：078-940-5510

一般成人外来

令和5年5月

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診【初診】	小田		小田				小田			
2診【初診】			担当医		担当医		担当医		担当医	
3診(再診)	置塩		田中		見野		青山		田中	
4診(再診)	二宮		植田		曾我		葛山		酒井	
5診(再診)	木下		中井		石橋		置塩		北島	
6診(再診)	轟		浅井		新谷		和田		緒方	
7診(再診)	茂木		榎本				真殿		小林あ	
8診(再診)	大山		高松	持田	関口	大山			榎木	
9診(再診)	吉川		榎木	小林あ	真殿		米村		金田	

- ※診察室1：もの忘れ外来初診の診察となります。
- ※診察室3：月曜日の午前はアルコール初診の診察となります。
- ※診察室8：火曜日の午前はアルコール初診の診察となります。
- ※診察室9：火曜日・水曜日・金曜日の午前はアルコール初診の診察、火曜日の午後は発達初診の診察となります。

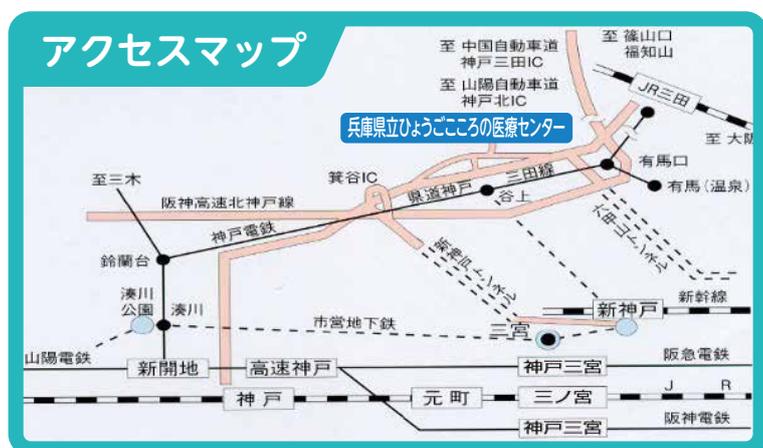
児童思春期精神科外来

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診			松尾 (初診)			田中 (再診)	渡邊(再診)		和田 (初診)	和田 (再診)
2診			神大派遣医 (初診)	神大派遣医 (再診)	尾崎(再診)					
3診			酒井 (初診)		徳永 (初診)		久保井 (初診)			
4診			緒方 (初診)		茂木 (初診)		小林み(再診)	榎本 (初診)		



交通のご案内

※できるだけ公共交通機関をご利用ください。



【電車でお越しの方は】

- ▶阪急・阪神・ポートライナー・JR三宮駅より市営地下鉄にのりかえ、谷上駅下車、徒歩8分
- ▶神戸高速鉄道・新開地駅よりのりかえ、神戸電鉄・谷上駅下車、徒歩8分
- ※神戸電鉄・市営地下鉄線谷上駅とひょうごこころの医療センターの間で患者送迎バスを運行しています。



※送迎バスの時刻表は、QRコード↑でご確認ください。

【お車でお越しの方は】

- ▶病院敷地内に無料の外来駐車場がありますが、台数に限りがあります。

05病P2-002A4

『人としての尊厳を大切に、誰もが安心できる医療を提供します。』

